

# 萩達だより

令和4年7月4日  
都立萩達高等学校発行

## 学校で作った野菜を「子ども食堂」へ！

通級の授業を生かして本校では野菜を栽培しています。

ん？なぜ？通級で栽培？と思われるかもしれませんが、実は深いつながりが野菜作りと通級にはあります。

定期的に水やりや肥料を入れることは、スケジュールの管理につながります。毎日続けるから定着していくことも肌で感じるすることができます。また、トマトの「わけ芽かき」はさぼっているとあっという間に葉が生い茂り、うまく実がなりません。



学校でつくったキュウリとなす

そしてなにより

頑張った証として、野菜が実る喜びがあります。達成した喜びともいえるべきでしょうか

最初のうちは、訳も分からず育てていた生徒たちも、苗を植えて毎日水を上げ続けていると主体的に野菜を育てる意識が生まれます。そして日々、野菜の成長を感じます。自分がやったことが、確実に

野菜に伝わり、大きく実ったときには、自ら育て、自分も実ったと実感できます。

そしてまだ続きがあります。なんとできた野菜を地域の子ども食堂へ寄付するという事です。寄付するためには相手とのコミュニケーションが必要です。相手は全く知らない地域の大人の方です。自分が作った野菜を役立ててもらうために、相手とのやり取りをする練習をし、実際に子ども食堂へ提供しにいきました。



自分たちで作った野菜を子ども食堂へ提供する生徒



提供の練習する生徒

食堂の方からはとても感謝されました。生徒は「やってよかった！」と言いました。地域の人からは「ありがとう」と言われました。貴重な体験付きの授業です。生徒の誇らしい顔が、いまでも忘れられません！